

この冬はやはり地球温暖化の影響でしょうか、震えるような寒い日が少なく、すでに気温が高くなりました。皆様お元気でいらっしゃいますか？

消費生活展終了

1年の中で一番大きな事業が消費生活展です。今年も2月1日(土)2日(日)の2日間、市民プラザで開きました。市内の9団体と行政が協力して、2日間で785人が参加してくださいました。会員分の冊子をいただきました。配布しますので、じっくりと読んでください。すでにお持ちの方はお友達へどうぞ。

2020年3月定例会

日時 3月2日(月) 13:30~16:00

会場 我孫子南近隣センター けやきプラザ
8F 調理室

テーマ 1年の活動のまとめと来年度に向けて

2020年4月定例会

日時 4月6日(月) 13:30~16:00

会場 我孫子南近隣センター けやきプラザ
8F 調理室

テーマ 新年度の方針、総会準備について

甘夏の共同購入

毎年水俣から甘夏の共同購入を行なっています。実もおいしいですが、皮をジャムやピールにして楽しんでいらっしゃる方も多いでしょう。今年は配達のないので、青山台の中村さんまで取りに来られる方のみとなります。ご近所で協力してください。

価格 1箱(10kg) 2,800円

申込 中村さん(7182-7935)へ。
23日まで。到着は2月中の予定。

バス見学会報告

1月14日「エフピコ関東リサイクル工場」を見学しました。加藤マリ子さんが報告を書いてくださいましたので、お読みください。

1月14日、茨城県結城郡八千代市にある「エフピコ」工場を26名で見学しました。以前(2012年)見学した時より工場数が増加し、選別作業のラインも増えていました。

エフピコ(EPCO)は、F(福山)P(パール紙)CO(株式会社)から名付けられ、ロシア語で守り神という意味があるそうです。

発泡スチロール製の食品トレーを作り、届け、回収し、再度トレーに再生させる<循環型システム>を世界で初めて実現させたのがエフピコです。今回はさらにペットボトルから透明容器へのリサイクルも行なっていました。

発泡スチロール製のトレーは、<ポリスチレン>という素材だけでできているので、ほかの素材のものと区別すれば、リサイクルしやすいのだそうです。

回収されたトレーは、再生できないトレーを除き、①白と色・柄つきトレーに選別 ②異物の取り除き ③1次破碎 ④1次洗浄 ⑤2次すすぎ洗浄・脱水 ⑥2次粉碎 ⑦熱で溶かしてカット⑧お米のような粒(ペレット)にし、⑨エコトレーに再生されます。

ペットボトルは、洗浄、異物を除いて粉碎し、不純物を取り除き、ペレットより少し大きめのフレーク(再生PET素材)になり、透明容器が作られます。例えば、お弁当の透明な蓋など

になります。素材はポリ（P）エチレン（E）テレフタレート（T）なのでその頭文字をとってPET（ペット）と呼んでいると知り、＜ポリエチレンテレフタレート＞ボトルかと知識を得ました。覚えられません！

私は、エフピコが世界で初めてこのシステムを始めることができたのは、日本のこれまでの廃棄物問題に取り組んできた積み重ねがあると感じました。なぜなら、食品トレーもペットボトルも消費者が洗って乾かして出さないといけないからです。ペットボトルはキャップと分け、ボトルは洗って出す、トレーは洗って乾かす、私たちには既に習慣となっていますが、海外の見学者からは「洗って乾かすなんて信じられない」と言われたそうです。いまだに海に捨てれば見えなくなり、なくなるという認識の人々・国は多いですし、ポイ捨ては後を絶ちません。

パンフレットにも「4者一体」で進めるエフピコ方式リサイクルとあり、消費者と一体となることが重要なことだと記されています。「消費者」(洗浄・乾燥)→スーパーなどのユーザー(回収)→包材問屋(運搬)→エフピコ(引取・再生)⇒生産⇒配送⇒販売⇒使用(消費者)

結論を急ぎます。帰りのバスの中でのまとめは、「買い物に行く時は、エコバッグの中に洗って乾かしたトレーやペットボトルを入れ、お店の回収箱に入れてから、買いものをする」でした。自治体のごみの日に回収する容器包装プラスチックにきちんと出すのも悪くはありませんが、結果的に別のものに変化していきます。トレーやペットボトルはできるだけ同じものに何回もリサイクルさせたいものです。でも、さすが、バス見学会に参加された皆さんの半数の方は既にもう実行されていました。

私はその後、トレーをお店の回収箱に持っていき中を覗いてみました。お店によってはトレー(ポリスチレン)やペットボトル、キャップ、

卵パックなどを細かく分別して回収している所と分別なしで集めている所と様々でした。回収箱がないお店もありました。これからは消費者への周知と取り組みを進めるお店を増やすことが課題だと思いました。

エフピコのもう一つの大きな特徴は障がい者雇用です。障がい者雇用率13.6%。障害のある社員は359名。パートではなく、正社員としての雇用。育児休業復帰率100%。半径15キロ圏内からバスの送迎で通勤しているとのことでした。

今回の工場見学でエフピコがリサイクルシステムを作り上げたこと、障がい者雇用をしっかりと行っていること、電子レンジにも対応できる容器を開発していること等、素晴らしい会社であることがよくわかりました。

しかし、私たちの心の中にあるプラスチックトレーやペットボトルの使用を抑えることが先ではないかという思いは拭いきれませんでした。

「トレーに模様をつければ、回収しても最後は黒のペレットになり、ほかのものになります。リサイクルを考え、トレーに模様をつけないということはできませんか」と担当者に聞きました。説明の方は、白のトレーと青の模様入りのトレーを二つ見せて「お刺身がここにのせられたとします。皆さんはどちらを買いますか？」と問いました。答えは歴然としています。青の模様入りが断然おいしく見えます。同じものだと頭でわかっているにもかかわらず美味しそう！という感覚は別でした。また、衛生面からもトレーは必要なものとなってきています。

ここまで来てしまったプラスチック社会。台所用品も電化製品も、洋服までプラスチック製品。レジ袋はいりませんとマイバッグ持参、トレー、ペットをお店に返却、飲み物持参でペットボトルは買わない、皆さん、あとはどうしますか？

加藤マリ子

裏面もご覧ください。

調査をお願いします

消費生活展のときに、出来るだけトレーはスーパーなどの店頭のボックスに返すようお願いしました。そうしたら、「私が行くお店にはそういう物が無い」という方が沢山いらっしゃいました。そこで、あなたが行っていらっしゃるお店には、どんなボックスがあるか？調査をお願いします。3月の「お知らせ」にアンケート用紙をつけますので、それまでをお願いします。

例えば、和田が行ったスーパーでは、①ペットボトル②アルミ缶③牛乳パック④食品トレー⑤透明なプラスチック⑥キャップ⑦プラのダストボックスと言うように7種類のボックスがありました。このように調べておいてください。

回収をしていないところ、種類の少ないところには、来期になります。申し入れをして置いてもらうようにしたいと考えています。ご協力ください。

消費者大会

毎年、千葉県消費者団体連絡協議会では、3月に消費者大会を開いています。今年は4団体がそれぞれの地域で取り上げたマイクロプラスチックの問題を取り上げます。

テーマ 「消費者に問われる未来への選択・・・プラスチックごみ」

日時 3月16日(月) 13:30～15:30

会場 千葉県消費者センター2Fホール

会費 無料

出席出来る方は和田(7183-1434)へ

講演会のお知らせ

「原発を作った」から言えること
～近くて危ない東海第二原発～

日時 3月1日(日) 14:20から

場所 我孫子市民プラザ・ホール

講師 後藤政志氏 NPO法人APAST理事長
元原子力プラント設計技術者

協力券 500円 定員 200名

協力券は7105-5292加藤

または7183-1434和田へ。

主催 「さようなら原発」あびこ

チラシを配布します。裏面をよく読んでください。そして是非ご参加ください。

～ ～ ～ ～ ～

新型コロナウイルスが、止まらなくなりました。当初言われていたよりも感染力が強い感じですね。毎日のニュースでももちろんご存知でしょうが、予防は丹念な手洗い、アルコール消毒とマスクです。終息するのは夏ごろとも言われています。具合が悪くなりコロナかな？と思った時の医者のかかり方なども新聞等で紹介されています。よく知って他の人に広げないよう、気をつけて医者にかかりましょう。

「高齢者はなるべく人混みに行かないこと」ということも言われています。でも、閉じこもってばかりいられません。どうぞ皆様気をつけながら、お元気でお暮らしてください！！

新聞にある「プラスチックごみー日本のリサイクル幻想」というDVDを会で買いました。

5月に開く総会の時、みんなで視聴する予定です。